

かがみ
じし

ひらぐしでんちゅう

鏡獅子　—平櫛田中—

六代目尾上菊五郎のふんする鏡獅子が、花道から出て来たとき、平櫛田中は思わず息を止め、ひざを乗り出しました。かつと見開いた目、きりつとひきしまった口、どつしどふみしめた足、かみの毛一本一本にまで、力強さがみなぎっています。

「これだ！」

田中が木彫の世界に求め続けた理想が、鏡獅子の中に生きているのです。

「この力強さをなんとか木彫で表現してみたい。自分の作品の総仕上げとして、天心先生のおっしゃる伝統木彫（日本に昔から伝わっている木彫）の美を表現してみたい。」と思いました。

このとき、すでに、田中は六十四才でした。

菊五郎の鏡獅子を作ろうと決心した田中は、毎日、歌舞伎座に通い出しました。

「首の曲げ具合、手の開き加減、足の位置…。どんなすがたがいいだろう。」

前後左右、いろいろな角度から舞台すがたを観察しているうちに、公演の二十五日間、ついに、一日も休まずに歌舞伎座に通っていました。

公演が終わってからも、菊五郎にお願いして、何回もモデルになつてもらいました。そして、



「試作鏡獅子」(昭和14年作)
井原市立田中美術館蔵



最後に決めたのが菊五郎が花道から舞台に出てきて、そこで口をしばり、とんとふんばって決めた、最もひきしまったすがたでした。

「着物すがたを正確にするために、まず、はだかの像を作つてみよう。」

と考えました。ふつう、着物を着た像をほる場合、下の肉体を作れば、着物はそれにうまくのつてくるものです。ところが、鏡獅子の場合は、着物が体に比べて、ずっと大きく作られています。さらに、もう一つやっかいなことに、頭に大きな毛をかぶっています。大きな着物もどうにか体に合わせておさめると、頭の毛が貧弱ひんじやくに見えてくるし、頭の毛に力を入れると、今度は着物の方が負けてしまうのです。頭だけの像を作つたり、小さい像を作つたりしながら研究を重ねました。「どうすれば、あの力強さ、ひきしまった感じが出せるのだろう?」

田中は、何度もみを持つ手の動きを止めました。上体をそらし、目を細め、息をつめては像をながめました。

こうしていく日ともなく過ぎて、いつしか二年の歳月さいがつが流れていました。

すばらしい鏡獅子ができるのことを期待して、お金の援助えんじょをしてきた人は、いつ完成するとも知れない様子にしびれをきらしてしまい、ついに、

「田中さん、わたしは、これ以上お金を出すわけにはいきません。あとは、ご自分の力でやってもらいましょう。」

と、冷たく援助を打ち切ってしまったのでした。援助のなくなつた生活は苦しいものでした。その上、物価は高くなる一方で、生活はますます苦しくなつていきました。さらに、第二次世界大戦も始まりました。

小さい鏡獅子を作つて研究を続けながら、ときには、それを売つて資金にあてていきました。
八十三才のとき、健康を害しました。

「田中先生もお年だから、鏡獅子の大作はご無理のようですね。」

「もういい加減にあきらめて、お金になる作品をお作りになればよいのに。」

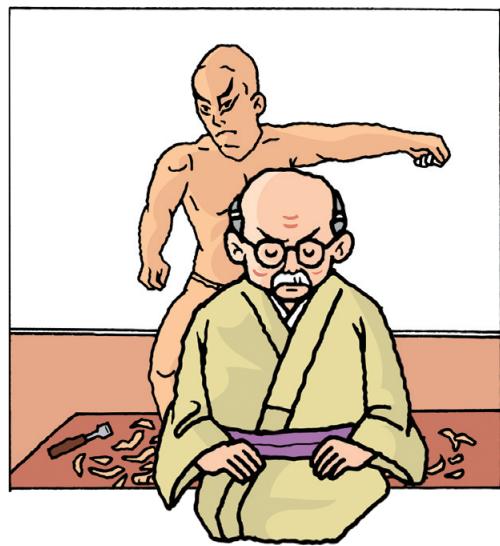
こんなかげ口を言う者も少なくありませんでした。

田中は、やせ細った体で、はうようにして仕事場に入っています。がらんとして人気のない仕事部屋には、制作中の鏡獅子が木くずの中に立っています。田中は、その前に静かに正座して目を閉じました。身動きもしないで考えにふけっていました。どのくらいの時間が過ぎたのでしょうか。いつの間にか、戸のすき間から朝の光がふりそそぎ、鏡獅子がまぶしいくらいかがやいていました。再び開いた田中の目には、新しい精気がみなぎっていました。

(よし、新しくやり直そう。)

ほねばつた手にぐつとのみをにぎりしめると、力強くほつていきました。

二度、三度の失敗にもくじけず、大きい原型から作り直してほつているうちに、しだいに、ひきしまつた力強さが出てきました。全身に血が通い、心臓の音さえ聞こえてくるようでした。



田中でんちゅうの命がこめられていました。鏡獅子かがみじに取り組んで二十年。二メートル三十三センチにもおよぶ大像は、見事に完成したのです。

田中でんちゅうは大きく目を見開いたまま、ただ鏡獅子を見つめていました。

「天心先生、やっと、わたしなりに満足のいく像として『鏡獅子』をほり上げることができました。長年の夢がようやく実現できました。伝統木彫の美の世界がうまくとらえられているでしょうか。先生、見てください。」

今はなき、岡倉天心おかくらてんしんに完成の喜びを報告する八十六才の田中でんちゅうの目に、なみだがあふれています。

完成するまでの二十年間、何度もかべにぶち当たり、何度かあせりに身をすりへらしました。そのたびに、田中でんちゅうの心を強く支えたものは、

『いまやらねばいつできる、わしがやらねばだれがやる。』
という心の声でした。

念願の鏡獅子を完成させた後も、とどまるところなく理想を求め続けた田中でんちゅうは、多くの作品を残して、昭和五十四年十二月三十日、百七才の生涯じょうがいを閉じたのです。

※岡倉天心：田中でんちゅうが生涯じょうがいの師とあおいた美術家。

1 主題名 やり抜く力

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、A 希望と勇気、努力と強い意志「より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。」である。児童が一人の人間としてよりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことが大切である。そのためには、目標をもってその達成に向けて粘り強く努力し、やるべきことはしっかりとやり抜く忍耐力を養うことが求められる。ただ漫然と努力するのではなく、児童がより高い目標を立てたり、その実現を目指して自分としての夢や希望を掲げたりして、前向きな生き方ができるようになる態度を養いたい。

(2) 児童の実態について

高学年の児童は、高い理想を求め、先人や著名人の生き方に憧れたり、自分の夢や希望を膨らませたりする時期であると言われる。一方で、自分に自信がもてなかったり、思うように結果が出なかったりして、夢と現実との違いを意識することもある。このような時期だからこそ、苦しくてもくじけずに努力して物事をやり抜き、夢を実現した平櫛田中の生き方にふれ、希望をもつことの大切さや希望をもつがゆえに直面する困難を乗り越える人間の強さについて考えさせたい。

(3) 教材について

井原市出身の平櫛田中は、明治～昭和にわたって多くの困難や障害を乗り越え、木彫一筋に生きた彫刻家である。本教材は、田中の晩年の大作「鏡獅子」制作にまつわる話である。

歌舞伎座の名優、六代目菊五郎の「鏡獅子」の舞を見て、そのポーズを彫りたいと決めた平櫛田中。試作を重ねる中で田中は、生活の苦しさや健康上の問題など数々の困難に見舞われるが、制作を続け、ついに22年の年月を経て完成を迎える。

指導にあたっては、困難に打ち勝つことができた田中の心の中をしっかりと考え方させ、鏡獅子を完成させたいという夢に対する強い思いに気付かせたい。

◇板書例

<p>○目標をやり遂げてよかつたこと</p> <p>◇目標を実現させるためには、困難があってもやり抜く強い心と実行力が大切。</p>	<p>完成した鏡獅子を前にした時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長年の夢が達成てきてよかつた。 	<p>挿絵</p> <p>鏡獅子の前で目を閉じて考えにふけっていた時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなかうまく表現できない。 ・自分の力はこれまでか。 ・どんなことがあってもやり遂げたい。 ・くじけずに自分の目指すものを完成させたい。 ・自分が決めたことを最後までやり遂げてみせる。 	<p>めあて目標を実現させるにはどんな気持ちが大切か考えよう。</p> <p>鏡獅子を制作しようと決めたとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この力強さを表現したい。 ・木彫の仕上げとして完成させたい。 	<p>鏡獅子　－平櫛田中－</p> <p>鏡獅子の写真</p> <p>書</p>
--	---	--	---	--

◇参考

平櫛田中（1872～1979年）。岡山県後月郡（今の井原市）生まれ。20才を過ぎたころから木彫を学ぶ。代表作「鏡獅子」は、東京国立近代美術館に寄贈され、国立劇場に展示されている。1962年文化勲章授与。

3 ねらい

自分の目標を実現させるための気持ちについて考える中で、困難があってもくじけずにやり抜く強い意志と実行力が大切なことに気付き、より高い目標に向かってくじけずに努力しようとする心情を育てる。

4 展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1 平櫛田中にについて知り、めあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ この彫刻や書をつくった人を知っていますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・力強い彫刻だな。仕上げるのは大変そうだ。この詩はどういう意味だろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡獅子の写真と平櫛田中の「いまやらねばいつできる…」の書を見せて、田中の生き方に興味をもたせる。 ・鏡獅子を完成させるまでに 20 年以上の月日を費やしたことを探らせ、課題意識をもちやすくする。
自分の目標を実現させるにはどんな気持ちが大切か考えよう。		
2 「鏡獅子 -平櫛田中-」を読んで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鏡獅子を制作しようと決めたのはどんな気持ちからでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・この力強さを何としても表現したい。 ・自分の目指す木彫の仕上げとして、よいものを創りたい。 ○ 目を閉じた田中は、長い時間どんなことを考えていたのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・お金もなく、年月ばかり過ぎていくのはどうしたものか。 ・なかなかうまく表現できない。 ・自分の力はこれまでか。 ・困難はあるが、自分の目指すところまでやり遂げたい。 ○ 完成した鏡獅子を前に、田中はどんなことを思ったのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の長年の夢が達成できてよかったです。 ・「今やらねば…」の気持ちで努力して、やり抜いてよかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡獅子制作のために一日も休まず歌舞伎座に通う田中の様子から、木彫の集大成として自分の夢を実現しようとする強い思いを考えられるようにする。 ・目を閉じた田中が、制作再開に向かうまでの気持ちをワークシートに書くことで、困難を乗り越えた田中の心の底にある夢に対する強い思いと実行力に気付くことができるようする。 ・試作を重ねてもなかなか思うようにいかない難しさ、周りの人に分かってもらえない苦しさ、病気になったつらさを自分のこととして考え、困難な状況を乗り越えた田中の心の底にあった思いを捉えることができるようする。 ・夢を実現したときの達成感、充実感を鏡獅子の写真や、田中の書と重ね合わせて考えられるようする。
目標を実現させるためには、困難があってもくじけずにやり抜く強い意志と実行力が大切だ。		
3 これまでの自分を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の目標を、最後までやり遂げてよかったですことはありますか。その時どんな気持ちでしたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・習い事でなかなかうまくいかなかったが練習を重ね目標を達成できてよかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のために努力したことを想起させ、くじけずに頑張ったことの尊さと、それを支えた思いについて考えられるようする。
4 教師の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先生にも目標に向かって努力したことがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をもってくじけずに頑張った経験を話し、実践意欲を高めたい。
自分もより高い目標に向かってくじけずに努力していきたいな。		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を実現させるためには強い意志と実行力が大切だと気付くことができたか。 ・より高い目標をもって努力しようという意欲を高めることができたか。 	

5 他教科等との関連

行事や学習に取り組む際に、自分の目標を設定して振り返る工夫などをし、捉えた道徳的価値を体験を通して実感できるようにする。

道徳ワークシート

鏡獅子

平櫛田中

6年()組()

○目を閉じた田中は、長い時間どんなことを考えていたのでしょうか。

